本部青年部 2024沖縄平和研修

現地に立ち、軍隊は国民を守らないことを実感

5月9日～11日、「2024沖縄平和研修」を開催し、各地から9名の仲間と引率2名の計11名で沖縄の地へ足を運び、過去と現在の沖縄について学んできました。また、美世志会の梁次さんにも帯同いただきました。

糸数壕（アブチラガマ）や荒崎海岸、ひめゆり平和祈念資料館で歴史を学ぶ中、参加者からは「ひめゆり学徒隊は『隊』と付くことから部隊だと捉えていた」「実態は強制的に軍に協力させられ最後は見捨てられる。真実は現地に立たないとわからない」との感想がありました。荒崎海岸では自決という道を選ばせられたことや、軍隊は国民を守らなかった事実を学びました。

その後、住宅街の真ん中にある米軍普天間基地を見学し、基地と沖縄県民の暮らしが隣り合わせの実態を肌で感じました。隣接する道の駅の展望台では基地の飛行機を撮影する方もおり、観光地化している実態を目の当たりにしました。

軍拡に抗い続けるたたかいに学ぶ

辺野古新基地建設現場では、軟弱地盤と世界的にも類を見ない深さへの埋め立て工事という中、サンゴやジュゴンといった希少生物への影響が懸念されることや、工期・予算ともに当初の予定から大幅に増大していること、基地移設だけではなく軍港機能などの再編強化も目論まれていることを学びました。

沖縄9条連の皆さんとの意見交換では、うるま市での訓練場建設を断念させたたかいなどを学びました。

不安を煽る動きに騙されず、「命」を守るために価値観を出し合おう！

政府は台湾有事の不安を煽りながら、自衛隊の基地建設やミサイル配備など、着々と「戦争のできる国づくり」を進めており、強硬的に進める国の姿勢と無責任さに危機感を覚えました。今後も各々の価値観を出し合い議論をしながら、命を守る取り組みを推し進めていきます。

仙台地本 ローカル線活性化シンポジウム

ローカル線で働く組合員の雇用と生活、地域を守るために開催！

仙台地本は5月31日、地本会議室にて45名参加のもと「ローカル線活性化シンポジウム」を開催しました。この取り組みは昨年10月施行の「改正地域公共交通活性化再生法」によってローカル線の存廃議論が活発化する中、組合員の働く場と生活を守ること、そして、地域の衰退を防ぐために連帯が必要であるという問題意識のもと、開催しました。

まちづくりと利用者目線で発信することを確認！

「ローカル線活性化シンポジウム」ではJR総連小林政策政治部長から、JR北海道労組の貨客混載の政策提言を中心にご挨拶いただきました。また、宮城県議会の佐藤仁一様から、ローカル線とまちづくり『「8（地域・行政）対7（鉄道事業者）」のドラマ！』として講演をいただきました。講演ではローカル線の存続と地域発展について、佐藤県議が岩出山町長と「あ・ら・伊達な道の駅」の代表を兼務されていた時の実践に基づき、利益だけで考えずに「地域文化を売る考え方」や「駅は人・モノ・文化が交わる場所であることから、まちづくりと駅との連携の大切さ」等々、行政・市民協働によるまちづくりと鉄道の連携の必要性が語られました。その後、仙台地本より「ローカル線プロジェクトの活動報告」、盛岡地本菅原副委員長より「市民団体との連帯した活動報告」が行われ、最後に「みどりの窓口」の閉鎖による徒列問題や「ワンマン信用降車方式」による運賃収受秩序の崩壊等の課題が山積する中、労働組合として市民・利用者目線で問題意識を発信することを全員で確認しました。

陸羽東線で市民団体が結成される！

シンポジウム開催前の午前中には、陸羽東線利活用促進の市民団体「りくとうサポーターズ」が結成され、シンポジウムにもご出席いただきました。「りくとうサポーターズ」は、地域で商店や旅館を営む方々やまちづくり団体職員など、多方面の方々で構成されています。結成会はマスコミでも取り上げられ、ローカル線への関心の高さが伺えました。

バス関東本部・バス東北本部合同意見交換会

5月9日、バス関東本部・バス東北本部は長野県佐久市で「合同意見交換会」を開催し、2012年の関越道ツアーバス事故と2016年の軽井沢スキーバス転落事故の現地踏査と意見交換を行いました。

事故現場では事故の概要を確認した後、献花と黙とうを行い、安全の大切さを再認識しました。その後の意見交換では、バス関東本部から「バス運賃の価格競争・事故当時の高速路線バスとツアーバスの違い」、バス東北本部から「2024年問題・バス運転士不足・雇用延長による高齢バス運転士の安全の確保について」をそれぞれ問題提起し、職場の課題を議論しました。

現在、「アライアンス」という業務委託形式によって、JRバスのブランドでの運行責任をパートナーバス会社が持つという、価格競争が発生しやすい営業形態が推進されています。

バス関東本部・バス東北本部としてチェック機能を果たし、「安全なくして労働なし」を合言葉に、安全哲学を組合員と共に構築していきます。

本部写真部第28回総会

本部写真部は5月10日、本部会議室にて「第28回総会」を開催し、18名が結集しました。これまでコロナ禍で活動を縮小していましたが、今年からは春に総会、秋・冬に撮影会という本来の活動ができるようになりました。

総会では来賓の佐藤中央執行委員長から講演を受けた後、各地本・職場での活動報告が行われ、安全への危機感や業務量の増大、要員不足など、各地本での苦労を共有しました。総会後には檄紙・檄FAXを取り組み、大宮・宇都宮・青森の仲間へ届けました。

写真の趣味を通じてヤング・ミドル・シニアの仲間が集い、写真のことや鉄道のことをワイワイと話し合える写真部に参加しませんか？ 秋・冬には撮影会を計画中です。決まり次第お知らせします！